

プロジェクト報告書

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

地球環境会議（KYOTO+20）に向け、大学生から発信！！

柴田瑞貴 佐藤光馬

始めに

本レポートは、コンソーシアム京都プログレスコースの公益財団法人京都市環境保全活動推進協会でのプロジェクト活動記録及び活動成果をまとめたものである。活動はインターン生二人、受け入れ先の担当者一名、コーディネーターの教授一名の四名で行った。

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、地球環境京都会議（KYOTO+20）に向け、大学生から発信というものである。プロジェクトの内容は、平成 29 年、地球温暖化対策に関する人類史上初の国際的な約束である「京都議定書」が誕生して 20 周年の節目を迎える。そして、京都議定書誕生 20 周年を記念して開催される地球環境京都会議(KYOTO+20)に向け、学生の声を京都へ、全国へ、世界へ発信し、広げるというものである。

そこでインターン生に大学生からの発信で KYOTO+20 を広げるという課題を課されたというのがプロジェクトの始まりである。

まず、プロジェクトの方針を決めるため、京都市環境政策局地球温暖化対策室の方へのヒアリングを実施した。そこで得られた回答を大きく二つにまとめると、1つ目が、KYOTO+20 の最後に出される京都宣言。これを作るための委員会である起草委員会に専門家だけでなく、我々若者の意見を取り入れたいという提案である。2つ目が、大学生を中心とした若者のパワーは大きなものであると認識しているが、現状、発信不足は否めない。もっと発信してほしいというものであった。

つまり、京都宣言を作るための起草委員会に若者の意見を取り入れ、発信することがインターン生に課された課題である。

プロジェクト目標

京都市環境政策局地球温暖化対策室の方へのヒアリングを実施したことから、本プロジェクトで何をするのか、目標を立てた。それは、アンケートを通し、若者にエコについて考えてもらい、“エコに対するやる気スイッチを押す！” というものである。

アンケートの作成

プロジェクト目標である若者のやる気スイッチを押すため、アンケートを作成した。このアンケートはどうすれば若者がエコについて考えるきっかけになるのかをグループ内で意見を出し合い、質問項目を作成した。大学生向けアンケートのためグーグルフォームを活用し、簡単に回答できるよう QR コードから読み取れるようにするなどの工夫をした。

“環境”のこと考えたことありますか？



公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

インターンプロジェクト

柴田 瑞貴 佐藤 光馬

平成 29 年、地球温暖化対策に関する人類史上初の国際的な約束である「京都議定書」が誕生して 20 周年の節目を迎えます。

私たちインターン生は、来る 12 月 10 日京都議定書誕生 20 周年を記念して開催される地球環境京都会議 (KYOTO+20) に向け、学生の声を京都へ、全国へ、世界へ発信し広げたいと考えています。

つきましては、大学生のみなさんが“未来の京都や環境”のことをどのように考えているのかを参考にさせていただきたいので、以下のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます(大学生以外の方も回答可能です)。

なお、本アンケートの集計結果は、“若者の意見”として紹介される等、様々な場所に反映される予定です。

<性別> 男性・女性 <職業> 中学生・高校生・大学生・社会人

<出身地> 都・道・府・県 <回答日> 2017 年 月 日

STEP1 大学生版エコライフチェック 出典：京都市「いまずく始めるエコ生活ガイド」

あてはまるものに印印をつけて下さい。

食事

- 食事は残さず食べ、粗末にしない。
- 「いただきます」「ごちそうさま」を言う。

家電

- 誰もいない部屋・教室の電気は消す。
- インターネットやゲームをやりすぎない。
- コンセントをつなぎっぱなしにしない。

生活

- 早寝早起きをする。
- 冷暖房はなるべく使わないように工夫し、使うときも設定温度を控えめにする。
- シャワーは長時間使わない。

ごみ

- ごみの分別をきちんとして、リサイクルに出す。
- 買い物用のマイバッグや、飲料用の水筒を準備して持ち歩く。
- 余分なものは買わないようにする。

コミュニケーション

- 友達や家族と環境問題やエコライフについての話をする。
- 人間以外の生き物のことや将来の人たちのことを考えた生活をする。



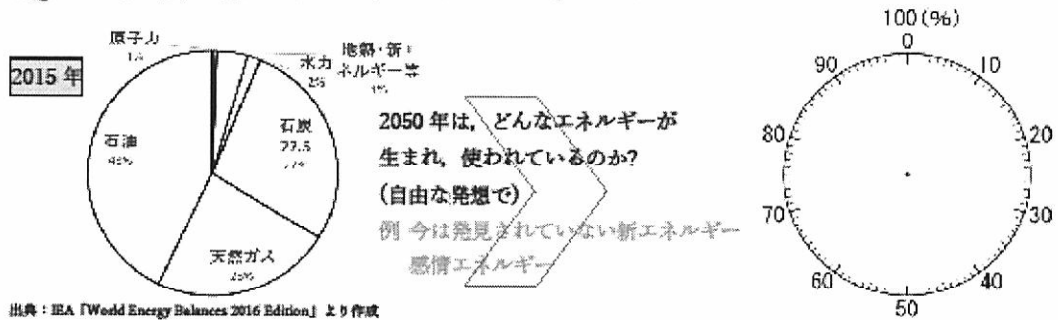
裏面に続く

STEP2 “未来はどうなっている?”アンケート

●Q1.未来の地球は天国?それとも地獄? 例 天国→「技術の発達で皆が幸せな世の中に」

●Q2.2050年,地球温暖化は進んでいる?止まっている? 例 止まっている→京都の大学生発のエコ活動の成果

●Q3.2050年に日本で使われているエネルギーはどんなエネルギー?



●Q4.2050年,京都で残したい,もしくは残っていてほしいもの 例 ○○寺→○○のときの思い出の場所だから

●Q5.2050年の自分に一言! 例 過去は振り返るな!未来を見ろ!

●Q6.2050年の世界,どうなっていてほしい? 例 緑あふれる世界になっいてほしい!

●Q7.今までの問いを踏まえ,2050年に向け,あなたが地球温暖化防止について起こしたいアクションは?

例 エコ活動を発信するサークルを立ち上げる,植林活動に参加する,無駄な買い物を減らす

●Q8.このアンケートを通して,環境問題への意識は高まりましたか?

- はい
いいえ

●感想・気づいたことなどをお書きください。

ご協力ありがとうございました。

なお,この用紙は厳重に保管し,本プロジェクト以外の目的には使用いたしません。

アンケート協力依頼

作成したアンケートを 2050 人に回答してもらいことを目指し、様々な施設に協力を依頼した。まず、最初のアンケート依頼は大谷大学の赤澤先生に協力を依頼した。赤澤先生が受け持っている講義内の学生にアンケート協力を行い、約 40 名程度の回収をすることができた。

また、7/13 のプログレスコース活動計画発表時にプログレスコースの学生 30 名程度に協力依頼し、回収することができた。

夏休みから 9 月末ごろにかけていきいき市民活動センターや青少年活動センターにて協力依頼をした。いきいき市民活動センターは京都市内 13 か所にあり、地域との交流やサークル活動や市民活動を支援している施設である。青少年活動センターも同様の活動しており、市内 7 か所にある。そのうち、10 か所程度の施設でアンケート用紙を置いていただくなどの協力を依頼し、多くの回収をすることができた。しかし、8 月末までの回収数が 210 名程度と当初目標である 2050 人には程遠い結果となった。

そうしたアンケート回収数の伸び悩みから、インターン生が自ら働きかけていくことが重要であることがわかったため、大学コンソーシアム京都のインターンシップであるビジネス・パブリックコース受講者の事後レポート提出時にインターン生が実際にアンケート協力を依頼した。また、この時は別プロジェクトであるオークション客層拡大プロジェクトもアンケート調査をしていたため、協力して調査依頼を行った。

結果、11/11 日の成果報告会までに 369 名のアンケートのアンケート回収をすることができた。

アンケートの集計・分析

得られたデータを発信する為、回答を集計・分析した。最終的な回収数は 369 件である。Q1.未来の地球は天国？それとも地獄？という質問は、天国が 30.9%、地獄が 69.1%と大幅に未来の地球は地獄であるにとらえている回答が多かった。また、Q2.2050 年、地球温暖化は進んでいる？止まっている？という質問は進んでいるが 83.8%、止まっている 16.2%とこちらも未来の地球を不安視している回答が多かった。この 2 つの質問から、若者は未来の環境について不安に感じていることがわかった。しかし、Q6.2050 年の世界、どうなっていてほしいという質問に対しては、戦争のない世界、みんなが笑顔の世界など明るく希望がある未来を望んでいることがわかった。また、Q5.2050 年の自分に一言では、前述のように未来に危機感を感じていながらも、幸せに生きていられるよう、自らを励ます声が多かった。

Q3.2050 年はどんなエネルギーが生まれ、何%ずつ使われている？という質問では、従来の原子力・火力が一定割合を占めている意見もある中、再生可能エネルギーの拡大や発見されていない新たなエネルギーへの期待も高かった。

Q4.2050 年、京都で残したい、もしくは残っていてほしいものは？では、京都らしさを

残したいという意見が多い。清水寺・金閣寺・平安神宮・伏見稲荷などの歴史的な建造物、鴨川や嵐山竹林などの自然、祇園祭りなどの文化、母校である大学・京都学生祭典などの意見もあった。

Q7.2050 年に向け、あなたが地球温暖化防止について起こしたいアクションは？では、身の回りでできる省エネ・省資源を始め、植林活動や環境ボランティア活動が多い。世の中が変わらなければ環境のことを視野に入れることはできないし、個人で頑張るにも限界があり、アクションを起こすなら日本の未来を考える、政治のような部分に何か起こす必要があるとの声もあった。

アンケート結果の発信

集計したアンケートを発信していくため啓発パネルとアンケート結果をもとにしたパネルを作成した。啓発パネルにはモザイクアートを使用した。本プロジェクトの活動風景や協力者にホワイトボードにエコの為に起こしたいアクションなど環境に関する事を書いてもらい、撮影した写真を用いた。アンケート結果をもとにしたパネルはアンケート回答のうち印象に残った回答を抜粋し、まとめたものである。

こうして作成したパネルは多くの施設で展示し、発信する。例えば、アンケート協力依頼をした、いきいき市民活動センターや青少年活動センター、また京エコロジーセンターなどで発信する。

プロジェクトの成果

アンケートの Q8.このアンケートを通して、環境問題に対する意識は変わりましたか？という質問で、「はい」と回答した人の割合が 73%であった。本プロジェクトの目標は、アンケートを通し、若者にエコについて考えてもらい、“エコに対するやる気スイッチを押す！”であったが、アンケート回答者の約 7 割がエコに対するやる気スイッチが押せたと感じており、本プロジェクトの成果であるといえる。